



モーター・ヘッドのフロントマンであり Vo./B.のレミー・キルミスターが 2015 年 12 月 28 日に伝説となってから 3 年が経つ今年、他界する約一か月前にドイツで行われたライヴを収録した最期の公式ライヴ映像『モーター・ヘッド/クリーン・ユア・クロック』が日本語字幕付きで劇場公開中。この公開に合わせ、東京・シネマート新宿ではクロスプロモーションとして、『ヴィクター・ヴラン オーバーキル エディション』の非売品カードのプレゼントを実施するほか、劇場口ビデオ『ヴィクター・ヴラン オーバーキル エディション』のトレーラーを上映いたします。

#### ■シネマート新宿：来場者プレゼント／イベント

(新宿区新宿 3 丁目 13 番 3 号 新宿文化ビル 6 F)

- 12 月 15 日(土)より連日：限定非売品ステッカー／『ヴィクター・ヴラン オーバーキル エディション』非売品カード（先着プレゼント／無くなり次第終了）
- 12 月 24 日(月)：motorhead テーブルクロス／motorhead ショットグラスセット／motorhead 女性下着／LA の“RAINBOW”より提供のマッチ、ポストカード、レミーズラウンジのフライヤー、コースター（抽選プレゼント）
- 12 月 28 日(金)：“Lemmy 飲み放題”（ジャックコーカ飲み放題）  
※ 20:00 よりジャックコーカ“Lemmy”飲み放題スタート 21:00～上映開始（終了 22:50 予定）  
(無くなり次第終了／20 歳未満なし)



#### 「クリーン・ユア・クロック」作品情報

2016 年/80 分/DCP/

原題：motorhead/clean your clock (完全にぶちのめす)

出演：レミー・キルミスター、フィル・キャンベル、ミッキー・ディー

提供：キングレコード

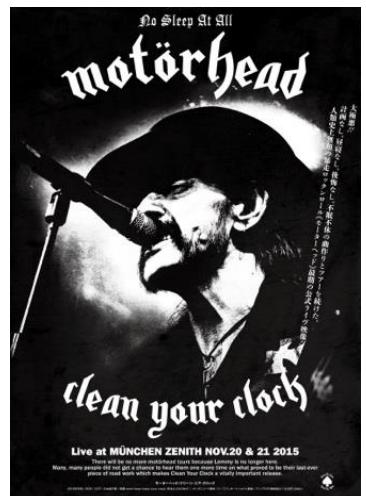
配給/宣伝：ビーズインターナショナル 配給協力：アンプラグド © UGR GmbH.

【映画公式サイト】[cleanyourclock.jp](http://cleanyourclock.jp)

【twitter／facebook】@lemmymoviejp

12 月 15 日(土)より、シネマート新宿にて(2 週間限定)レイトショー公開中

ディノスシネマズ札幌劇場、ジャック＆ベティ(神奈川)、宇都宮ヒカリ座、名古屋シネマテーク、シネ・リーブル梅田、出町座(京都)、元町映画館(兵庫)、広島横川シネマ、シネマルナティック(愛媛)、ガーデンズシネマ(鹿児島)、桜坂劇場(沖縄)、ほか全国順次公開



#### 『モーター・ヘッド/クリーン・ユア・クロック』



2015 年 12 月 28 日、核爆弾が落ちてもゴキブリとともに生き残るといわれ、2,000 人の女性と夜と共にし、1956 年にはロックンロール誕生の瞬間に目撃、マルボロとジャックダニエルにまみれて血液が猛毒化、ビートルズを愛し、世界一音が大きいバンド、モーター・ヘッドを 40 年間続けた、1945 年クリスマスイブである 12 月 24 日に生まれて以来、不眠不休の大暴走を続けた人類最強の豪傑、レミー・キルミスターが 70 歳でこの世を去った。誕生日を迎えてから 4 日後、癌を宣告されてからわずか 2 日後のことだった。そして翌日、メンバーからモーター・ヘッドの活動終了が伝えられた。本作はその暴走ロックンロールの帝王、モーター・ヘッドの 2015 年 11 月 20 日と 21 日、ドイツ・ミュンヘンでのライヴを収めた、モーター・ヘッド最期の公式ライヴ映像。1975 年の結成以来、怒涛のスピードと圧倒的音圧によるシンプルで攻撃的なロックンロールを 40 年間続け、メインストリームとは真逆のロックの裏街道を駆け巡ったモーター・ヘッドは、ヘヴィメタルとパンク/ハードコアという普段相容れない両ジャンルからも熱い支持を集め、その両者が一触即発の状態に陥った場合でもモーター・ヘッドの曲を流せばすべてがおさまるという、この世に類を見ない存在感を誇ったバンドだ。レミーの死の約 1 カ月前のライヴである本作は、2015 年のフジロック同様、レミーの衰えた姿はショッキングもあるが、逆にそれを支えるギターのフィル・キャンベルとドラムのミッキー・ディーの奮闘ぶりに胸が熱くなる。だがしかし、レミーの超人ぶりも健在で、ライヴ途中からのスピードと疾走は 69 歳（当時）とは思えぬ暴走具合で、モーター・ヘッドという唯一無二なバンドの底力がスクリーンを通して伝わって来る。このライヴは、本当にこのバンドが終了してしまったという喪失感と、人類がこの先何億年存在しても同じようなバンドは出現しないという事実を我々に突き付けるとともに、バンドとしていつでもどこでも同じクオリティを届けようとするモーター・ヘッドとレミーの誠実さが伝わってくる作品だ。この世に音楽を奏でる人やバンドは無くならないが、モーター・ヘッドと同じものをもたらしてくれるバンドは二度と現れない。それがはっきりわかる貴重な上映となるはずだ。